

令和5年度 都筑区区民意識調査 結果概要

都筑区役所では、区民の生活意識と生活行動を把握し、区政運営に生かすことを目的に、区民意識調査を実施しました。(前回は、令和元年度に実施しました。)

今年度の調査では、居住意向などの基礎データのほか、前回から継続して「子ども・子育て支援」、「災害対策」、「自治会町内会活動」、「地域での支え合い」等について伺いました。

また、より簡便に回答できるよう、新たにインターネット調査を実施したことで、前回調査(令和元年度調査)と比較して回収率が10.7ポイント増加しました。

○調査結果のポイント

- ・都筑区に「住み続けたい」と回答している人は8割超
- ・都筑区の生活環境の満足度のトップは「緑道や公園などの豊かな自然」
- ・子育てに役立つ情報では、すべての年代で「医療機関情報(産科、小児科等)」が最多

● 調査概要

- 調査対象：都筑区内に在住する満18歳以上の方(外国人市民を含む無作為抽出)3,000人
- 調査方法：郵送調査(郵送で調査票を送付し、郵送で回収)
インターネット調査(郵送で調査票を送り、インターネット上で回答する)
- 調査期間：令和5年5月24日～6月20日 ■設問数：30問
- 回収結果：1,817票(回収率60.6%) ※前回(令和元年度)回収率：49.9%
- 性別：男性44.4% 女性53.3% 無回答2.3%
- 年齢：10歳代2.0% 20歳代10.3% 30歳代10.8% 40歳代17.3% 50歳代23.0%
60歳代14.2% 70歳以上20.4% 無回答1.9%

1 都筑区に対する居住意向(報告書P12)

①居住開始時期

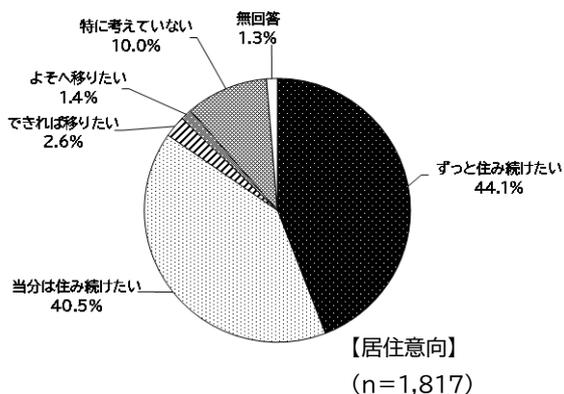
平成7年以降に住み始めた人が全体の7割近くを占める。「平成7～平成16年(1995～2004年)」に都筑区に住み始めた人の割合が最も高い(26.4%)。

②都筑区に来る前の居住地

「都筑区以外の横浜市内」が最も高い(34.6%)。

③居住意向

「ずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」を合わせると、「住み続けたい」と回答している方は8割を超える(84.6%)。



2 通勤・通学の状況(報告書P23)

①職場・学校の所在地

「都筑区以外の横浜市内」が最も高く(25.8%)、次いで「東京都内」(24.9%)、「都筑区内」(18.5%)。

②通勤・通学の手段

「市営地下鉄(ブルーライン)」(32.1%)、「市営地下鉄(グリーンライン)」(31.4%)、「私鉄」(29.6%)を、それぞれ3割の人が利用している。

③通勤・通学にかかる時間

通勤・通学にかかる時間は「30分～1時間未満」が最多で約3割(30.6%)。

3 地域での日頃の生活(報告書P29)

①自治会・町内会への加入状況

自治会・町内会への加入者は約6割(61.2%)。加入率は居住開始時期が早いほど高い傾向にあり、特に居住開始時期が昭和39年(1964年)以前では9割に達している。

②自治会町内会活動に期待する取組

「災害時や日ごろの支え合い」が最も高く約6割(59.8%)。次いで「防犯活動」(49.1%)、「防災活動」(40.8%)、「子どもの見守り・子育て支援」(35.1%)となっている。

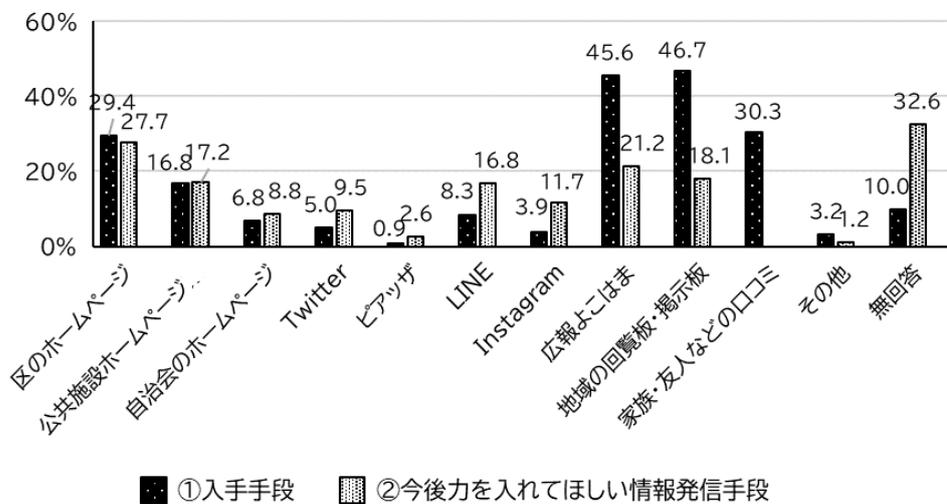
③隣近所に住んでいる人を知っているか

「だいたい知っている」(42.2%)、「よく知っている」(11.8%)を合わせると、「知っている」と回答した方は5割以上であり、また、年齢が高いほど「よく知っている」の数値も高く、70歳代以上では2割を超えている。反対に「あまり知らない」「全く知らない」を合わせた数値は30歳代で特に高く、66.5%となっている。

また、「自治会に加入している」と回答した方で、「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した方が70.7%と7割に達している一方、「自治会に加入していない」では、23.5%となっており、自治会に加入している方と加入していない方で差が出る結果となった。

④地域情報の入手と情報発信手段

身近な地域情報の入手手段は「地域の回覧板・掲示板」が46.7%で最も高く、次いで「広報よこはま」が45.6%、「家族・友人などの口コミ」30.3%、「区のホームページ」29.4%となっている。今後力を入れてほしい情報発信手段は「区のホームページ」が27.7%で最も高く、次いで「広報よこはま」21.2%となっている。



⑤地域活動への関心

「まちの清掃・美化活動」が27.0%で最も高く、次いで「お祭り、どんと焼きなどの地域の伝統的行事」25.7%、「防災訓練などの大規模災害を想定した防災イベント」20.1%となっている。

4 都筑区の生活環境に関する重要度・満足度(報告書 P51)

①生活環境の重要度(回答者が重要と感じているもの)

	1位	2位	3位	4位	5位
上位5項目	日常の買い物の便利	防犯に対する意識や取組	電車の便利	歩行者のための道路環境	緑道や公園などの豊かな自然

②生活環境の満足度

	1位	2位	3位	4位	5位
上位5項目	緑道や公園などの豊かな自然	電車の便利	日常の買い物の便利	街並み景観	車利用のための道路環境

③都筑区の魅力

	1位	2位	3位	4位	5位
上位5項目	緑道や公園などの豊かな自然	日常の買い物の便利	街並み景観	電車の便利	最寄り駅周辺のまちづくり

5 災害対策(報告書 P61)

①災害関連情報収集手段

「テレビ」が最も高く (81.8%)、次いで「インターネットのニュースサイト」(69.8%) となっている。

②地震や風水害への備え

「3日分以上の食料や飲料水の備蓄」が最も高い(52.1%)。以下「家具の転倒防止」(46.2%)、「近くの学校や公園などの避難所・避難場所の確認」(45.3%)、「日用品や常備薬の準備」(41.1%)。

③災害時要援護者の同居の有無

家族に災害時要援護者がいるのは全体の2割弱 (18.4%)。

6 健康づくり(報告書 P67)

①運動について

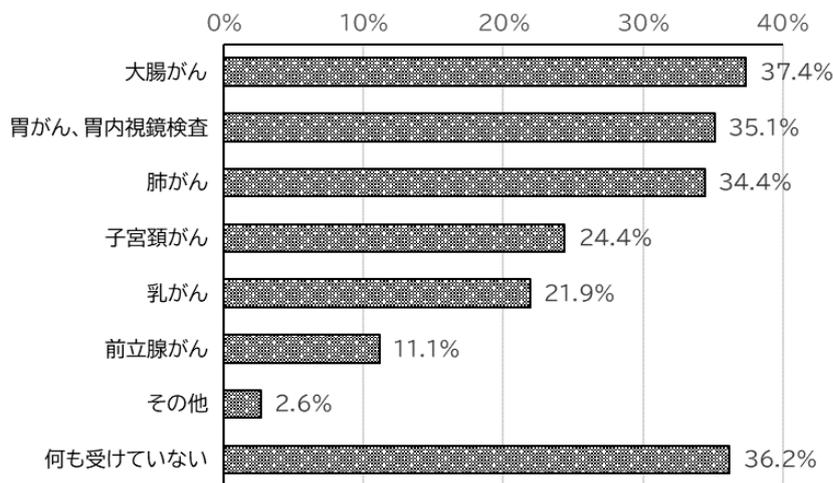
息がはずみ汗をかく程度の運動を、1回30分以上、週に2回以上行っているのは全体の4割弱。

②歯科検診

「はい」が63.9%で、「いいえ」の35.7%を28.2ポイント上回っている。

③がん検診

受けたがん検診では「大腸がん」が37.4%で最も高く、次いで「胃がん、胃内視鏡検査」35.1%、「肺がん」34.4%となっている。「何も受けていない」は36.2%である。



7 子ども・子育て支援(報告書 P77)

①子育て経験の有無

「経験がある」「現在子育て中(18歳未満の子)」を合わせると6割を超え(64.7%)、「ない」は3割(31.4%)。

②子育てに役立つ情報

子育てに役立つ情報は「医療機関情報(産科、小児科等)」が最も高い(69.0%)。次いで「保育所など子どもを預けられる施設や放課後キッズクラブなど放課後児童の居場所に関する情報」(48.3%)。

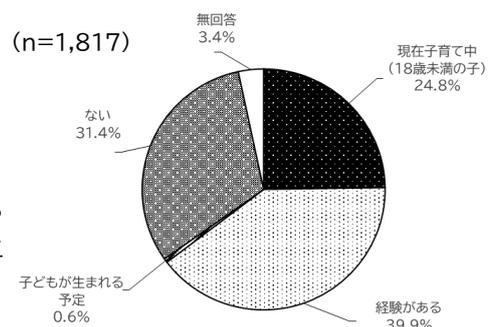
③子育てのためであるとよい取組

「身近な場所での子育てに関する相談窓口や居場所の充実」が最も高い(58.0%)。次いで「相談しやすい行政窓口」(41.2%)。

④子どもに関する居場所・施設について、であるとよい取組

「通いやすい場所の保育施設の設置」が48.4%で最も高く、次いで「買い物やリフレッシュに利用できる預かり施設の増加」46.3%となっている。

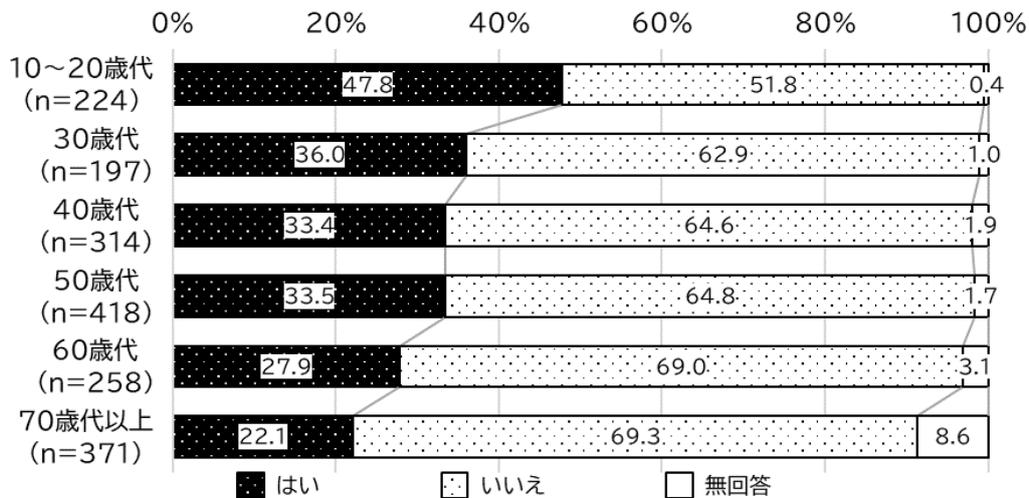
子育ての経験で分類すると、現在子育て中の方は「親子で遊びに行ける居場所の増加」、過去に子育ての経験がある方は「通いやすい場所の保育施設の設置」、今後子どもが生まれる予定の方は「買い物やリフレッシュに利用できる預かり施設の増加」が最も高い。



8 障害児・者理解(報告書 P90)

①障害児・者との交流機会

障害児・者と交流する機会があったのは全体の約3割(31.9%)。また、いずれの年代でも「いいえ」の方が高いが、10~20歳代では「はい」の数値が47.8%と、半数近くに達している。



②障害や疾病に関するイベントや啓発活動への参加

イベントや啓発活動へ参加したことがあるのは15.5%。また、参加したイベントでは「障害や障害のある人をテーマにした講演会」が44.1%で最も高く、次いで「福祉バザー」37.0%、「障害のある人が作成した作品展」25.6%となっている。

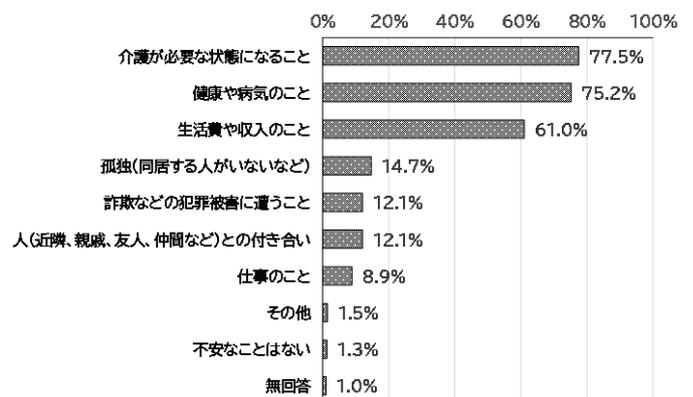
9 高齢者支援(報告書 P95)

①高齢者の生活で特に不安なこと

「介護が必要な状態になること」(77.5%)、「健康や病気のこと」(75.2%)がそれぞれ7割以上、次いで「生活費や収入のこと」が6割(61.0%)。

②高齢者人口の増加に対する支援や取組

「在宅医療の推進・支援」(48.1%)が最も高く、「介護予防などの健康の維持管理」(46.3%)、「ひとり暮らし、高齢者のみの世帯になった時の訪問などの見守り」(44.1%)、「買い物、通院などの外出に対する支援」(41.6%)がそれぞれ4割以上。



横浜市都筑区政推進課企画調整係 電話 045-948-2227 FAX045-948-2399

調査報告書の全文は、右の二次元コードを読み込んでいただくか、

「都筑区 区民意識調査」で検索してください。

